BEAMS 40 周年記念プロジェクト始動

世界初、TOKYO ファッション 40 年の軌跡を 5 分に完全アーカイブ

第一弾『TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック(smooth rap)』MV 公開

URL： https://youtu.be/xmsxWmKz-B8

株式会社ビームス（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：設楽洋）はこの度、創業40周年を記念した新規プロジェクト「TOKYO CULTURE STORY」を発足します。その第一弾として、40年間の東京のカルチャーを、ファッションと音楽という2つの視点から振り返るMV『TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック(smooth rap)』を2016年10月21日（金）に公開します。

|| 「TOKYO CULTURE STORY」とは

「TOKYO CULTURE STORY」は、セレクトショップの先駆けとして、常に新しいトレンドを牽引してきたビームスが、東京の若者文化と共に歩み、共に創り上げてきた40年間にフォーカスを当てるプロジェクトです。今後も移りゆく時代の中で、ハッピーなモノやコトを世の中に発信していこうという、ビームスのメッセージが込められています。

|| 当時の貴重なアイテムを掘り起こし、各年代のスタイリストが各時代をリアルに再現！

第一弾として10月21日（金）に公開されるMV『TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック(smooth rap)』は、ビームス誕生から現在までの東京の40年をファッションと音楽から振り返る内容です。モデルが身につけているファッションは本企画の全体スタイリングディレクションを手掛けた島津由行をはじめ、伏見京子、井嶋一雄、木俣歩、二村毅、管沼詩乃、高橋ラムダ、遠藤彩香ら各年代を代表するスタイリスト陣が、当時の貴重なコレクションの数々を掘り起こして時代性を表現。衣装点数は各年代合わせて350点以上登場します。ヘヴィーデューティ、カラス族、渋カジ、アムラー、ノームコアなど、各年代を象徴するファッションスタイルが一年ごとに紹介される、日本初のファッション・音楽ヒストリー映像です。

||15ジャンル、17組のアーティストが歌い繋ぐ『今夜はブギー・バック(smooth rap)』メドレーカバー

また音楽は、90年代の東京ストリートシーンを彩った小沢健二とスチャダラパーによって1994年にリリースされた渋谷系を代表する大ヒットのコラボレーション曲『今夜はブギー・バック(smooth rap)』を、1976年から各時代を代表する総勢17組のアーティストがメドレー形式でカバーミックス。編曲は世界を舞台に活躍するサウンド・プロデューサー/編曲家/作曲家で有名なCMJK.が手掛けております。アーティストは、『17才』『私がオバさんになっても』など数々のヒット曲を生みだした森高千里や、リオパラリンピック閉会式でも使用された『東京は夜の七時』で知られるピチカート・ファイヴの三代目ヴォーカリスト野宮真貴、日本のサブカルチャーとして国内外から人気を誇る初音ミクらが参加しています。

＜登場衣装＞ ※一部抜粋

・1976～79年：　UCLAスタイル / ヘヴィーデューティ / アウトドアスタイル / サーフスタイル / シティボーイ / ディスコスタイル

・1980～89年：　竹の子族 / カラス族 / 第一次DCブランドブーム / パンクス / オリーブ少女 / 渋カジ

・1990～99年：　グランジ / アンダーカバー / 裏原ムーブメント / B-BOY / アムラー

・2000～09年：　ニューグランジ / LAセレブ / 森ガール / エレクトロスタイル / 甘辛ミックス

・2010～16年：　山ガール / ニューシティボーイ / パステルカラー / ノームコア / ミクスチャースタイル / アンバランススタイル

＜登場ブランド＞ ※一部抜粋

・1976～79年：　nicole / SIERRA DESIGNS / PINK HOUSE / LIGHTNING BOLT / LACOSTE

・1980～89年：　CREAM SODA / YOHJI YAMAMOTO / tricot COMME des GARÇONS / SEDITIONARIES / PERSON'S / TAKEO KIKUCHI / JUNKO SHIMADA / MILK / CHRISTOPHER NEMETH / VIVIENNE WESTWOOD / adidas Originals / KANGOL

・1990～99年：　CONVERSE / PATAGONIA / A.F.F.A / A.P.C / NOWHERE / UNDERCOVER / X-GIRL / BABY-G / GOODENOUGH / A BATHING APE / HELMUT LANG JEANS / NIKE

・2000～09年：　SILAS / COSMIC WONDER / N.HOOLYWOOD / JILL STUART / See By Chloé / CHEAP MONDAY / THOM BROWNE / NEW ERA / WACKO MARIA

・2010～16年：　TAKAHIROMIYASHITATheSoloist. / UNUSED / SASQUATCHFABRIX. / G.V.G.V / MIKIO SAKABE / MCM / KENZO / BEAMS / Ray BEAMS

＜出演アーティスト一覧＞

・1970年代:　南佳孝 [シティ・ポップ] / 戸川純 [ニューウェーヴ]

・1980年代:　SEIJI(GUITAR WOLF) [ロックンロール] / こだま和文(ex.MUTE BEAT) [ダブ] / 森高千里 [ダンス・ポップ]

・1990年代:　EYE※(BOREDOMS) [オルタナティブ・ロック] / 野宮真貴 [渋谷系] / サイプレス上野・高木完 [ヒップホップ]

・2000年代:　HUSKING BEE [メロコア] / ナカコー＆フルカワミキ (LAMA/ex.SUPERCAR) [テクノ/エレクトロニカ] / クラムボン [ポストロック] / sasakure.UK feat. 初音ミク [ボーカロイド]

・2010年代:　チームしゃちほこ [アイドル] / tofubeats・仮谷せいら [クラウド・ラップ] / YONCE(Suchmos) [アシッド・ジャズ/ロック]

※ふたつめのEはヨのように左右反転

＜楽曲について＞

スチャダラパー featuring 小沢健二

『今夜はブギー・バック(smooth rap)』

1994年3月9日にリリースされるやいなや、五十万枚を超えるヒットに。

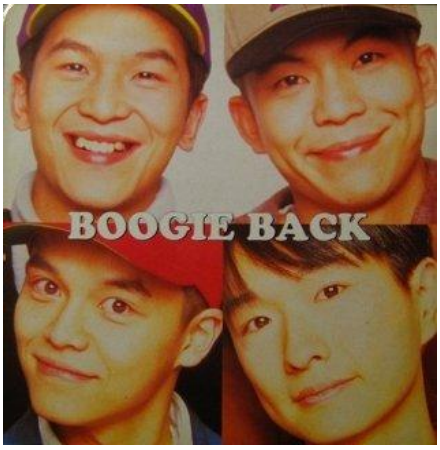
以降、数多くのミュージシャンに愛され、カバーされてきた。

日本語ラップとして、お茶の間レベルでヒットした最初期の楽曲のひとつであり、

このヒットにより小沢健二とスチャダラパーの名前は一躍広く知れ渡った。

当時、2組はそれぞれ、別々のレコード会社に所属しており、その枠を超えた

ミュージシャン同士のコラボ作品の先駆とも云える。



[redacted]

＜出演キャストについて＞

メインキャストには、俳優として活躍中の池松壮亮、女優・モデルの小松菜奈を迎え、総勢男女 82 名のモデルが東京を彩った 40 年分のスタイルを着こなします。俳優・モデルの柳俊太郎や中田圭祐(MEN'S NON-NO モデル)、KASUMI、谷口蘭など、今、TV やファッション誌で活躍中の面々がキャストに名を連ね、彼らが様々な時代のファッションを着こなす模様は必見です。

■メインキャストプロフィール

池松壮亮

俳優。ハリウッド映画『ラストサムライ』で映画初出演。『ぼくたちの家族』『紙の月』、ドラマ『MOZU』ほか出演多数。最新作『永い言い訳』公開中。

10 月 29 日より『DEATH NOTE Light up the NEW World』が公開。

小松菜奈

女優・モデル。『渇き。』で女優デビュー。日本アカデミー賞新人俳優賞ほか数々受賞。

マーティン・スコセッシ監督『沈黙-Silence』でハリウッド進出。

『溺れるナイフ』『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』公開予定。

＜『TOKYO CULTURE STORY 今夜はブギー・バック(smooth rap)』MV制作について＞

映像制作には総勢1,200名が参加。原宿、渋谷、表参道など東京のカルチャーシーンを象徴する場所で、計300時間以上をかけて撮影された大作となっています。衣装はデザイナーのファーストコレクションや限定コレクションも多数含まれるため、多くの個人やブランドの協力も頂き各年代のファッションを再現した世界初の試みとなっています。ファッションと音楽から東京カルチャーの40年を振り返れるノンストップワンカットムービーを、是非お楽しみください。

＜ビームスについて＞

1976年、東京・原宿に6.5坪の第一号店をオープン。ファッションとライフスタイルにまつわるあらゆる物を世界中から仕入れ提案する、セレクトショップの先駆けとして成長してきました。現在は日本、香港、中国、台湾、タイに約150店舗を展開し、国内外のブランド及び、オリジナルブランドの幅広い取り揃えで全ての年代の男女に愛されています。

「TOKYO CULTURE STORY」は今後、随時情報を公開していきますので、どうぞご期待ください。

○BEAMS公式ウェブサイト： www.beams.co.jp

○「TOKYO CULTURE STORY」公式ウェブサイト： tokyoculturestory.com

＜本件に関しての問い合わせ＞

TOKYO CULTURE STORY（BEAMS 40th Anniv. PROJECT）

PR事務局（マテリアル内）担当：鈴木、吉田

TEL： 03-5459-5490 FAX： 03-5459-5491 Mail： 4g@materialpr.jp